開校50周年　校訓：明るく・仲よく・たくましく　「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日　depuis 1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

令和5年度学校だより　第10号　令和5年11月14日発行　　パリ日本人学校　校長　伊藤　博

霜月（しもつき）11月　寒さに負けず2学期のしめくくり！

日に日に寒さが増してきますが、パリ日は朝から元気な子供たちの挨拶が飛び交っています。朝、教室を巡回していると、それぞれの教室から「おはようございます」の元気な声が聞こえます。児童会でも挨拶運動推進中で、元気な挨拶で一日が始まるとたいへん気持ちが良いものです。

11月６日（月）には、小学部の「縦割り遊び」がありました。異年齢間の交流を大切にするパリ日にとって、ベルサイユ遠足以来の活動でした。上級生がリードする遊びに夢中で取り組む姿が印象的でした。2学期もあと１か月少々です。そろそろしめくくりを意識する時期となりました。ぜひ有終の美を飾りたいですね。

図書ボランティアさんに感謝！　図書室バーコード化　加速中！

すでに図書ボランティアの方による図書室蔵書のバーコード化作業をお伝えしていますが、10 月の保護者面談では、ご来校された多くの方にお手伝いをいただきました。また、原則隔週火曜日の活動日以外にも、ボランティアの方に作業していただいております。おかげさまで、この 12 月にバーコードを活用した本の貸し借りの試行ができるようです。学校としても、書架のリニューアルや新たな書籍の購入などで、50 周年にふさわしい図書室の実現に努めてまいります。

小学部２年生　ブールデル美術館見学

10 月 18 日（水）、２年生が見学したブールデル美術館は、ロダンと並ぶ近代彫刻の巨匠アントワーヌ・ブールデルが、モンパルナスの静かな一角に 1885 年から亡くなるまでの 45 年間を過ごしたアトリエ兼住居が美術館として公開されています。中庭に面した回廊や奥の広間には、代表作の『弓を射るヘラクレス』など、神話をテーマにした作品が展示されています。子供たちは気に入った作品を前にして真剣にスケッチをしていました。無料の施設ですので、ぜひご家族でもお出かけください。

「車いすラグビーカップ2023」 全校で日本代表を全力応援！

10月19日（木）に、「パラリンピックを通じて考える」～今のわたしと未来のわたし～をテーマに探究学習をしている本校にとって、車いすラグビーカップ2023を観戦できたことは、貴重な体験の場となりました。今回の観戦は、本校理事で仏国三菱商事社長の依田利興様と日本車いすラグビー連盟様のご尽力で実現しました。

激しくぶつかる車いすの音や、素早く攻守が入れ替わるスピード感に圧倒されました。ハーフタイムには会場内に流れるインタビューもあり、中学部の HM さん、MC さんがフランス語でしっかりと答えていました。試合後には6年生の代表から日本代表のエース池崎選手に、全校の寄せ書きをした応援の日章旗が贈呈され、一緒に写真撮影をしたりメッセージをいただいたりしました。試合は55対50で日本代表がアメリカ代表に逆転勝ち。準決勝ではオーストラリア代表に敗れましたが、3位決定戦で地元フランス代表を1点差で破り、銅メダルを獲得しました。来年のパリパラリンピックでの日本代表の活躍を心からお祈りしましょう。

元ラグビー日本代表キャプテン廣瀬俊朗さんから パリ日へメッセージ

★車いすラグビー観戦を前に、ラグビーワールドカップのテレビ放送解説者としてパリ滞在中の元ラグビー日本代表キャプテンの廣瀬俊朗さんから、パリ日にビデオメッセージをいただき、朝会で紹介しました。

みなさんこんにちは。元ラグビー日本代表で、株式会社 HIRAKU をやっております、廣瀬俊朗と申します。今回、50 周年記念行事の終了から取り組む「パラリンピックを通じて考える　今のわたしと未来のわたし」、すばらしいテーマだなと思いました。10 月の車いすラグビー大会は、まずは皆さんに見ていただいて、「障害ってなんだろう」、「パラって何だろう」ということを考えてもらえるといいのかなと。純粋に車いすラグビーはスポーツとしてめちゃくちゃダイナミックですし戦術的ですし、こんなスポーツあんねんや、という思いがあると思っています。障害の重い人も軽い人も女性もみんなが一緒になってできるスポーツで、本当に魅力的だなと思っています。

では、何でそんな魅力的なスポーツになっているのかとか、このスポーツがどうやったらもっと広まるのかとか、はたして皆さんはこういうスポーツに専念できているのかとか、引退してどうなるのかとか、そういうことを考えるきっかけにできるといいのかと思います。まずは、純粋にこのスポーツを楽しんで、ちょっと気になったところを深掘りしてみると、今の自分の置かれている環境とか、未来についてどうしたらよいのだろうかとか、世の中や世界はどうあるべきなのかとか、そういうことを考えるいいきっかけになるのかなと思うので、ぜひとも車いすラグビー、および、パラスポーツを見て、楽しんで、何かを感じて、学びにつなげてほしいなと思います。どんな学びになるのかめちゃ楽しみにしています。以上です。オールボワー！

小学部5年生　オランジュリー美術館見学

　10月20日（金）に、5年生がクロードモネの大作「睡蓮」で有名なオランジュリー美術館を見学しました。今回は美術館ガイドのセシールさんによるフランス語の解説を、本校のレア先生が日本語に訳したものを聞きました。熱心なガイドさんに、「睡蓮」の間の作品はもちろん、階下に展示してあるピカソやアンリルソー、ルノワールの作品についても詳しく解説していただきました。子供たちもたいへん真剣な態度で臨んでいて、たまたま日本から来ていた日本人観光客の方、お二方にお褒めの言葉をいただきました。

後期　児童会・生徒会　役員決定

　小・中学部とも後期の役員が決定し、すでに活動を開始中です。前期の活動の成果と課題を活かした取組の実現で、さらなるパリ日の前進を期待しています。

【小学部】児童会　会長　SH
　　副会長　UT・FY　書記　KY・KH
　　図書委員長　HA　　放送委員長　NS　保健体育委員長　SK　国際理解委員長　SK
【中学部】生徒会執行部　会長　ON　　副会長　IR・AH　　書記　HW・YY
　　体育委員長　IY　保健委員長　HA　報道委員長　HY

スポーツ庁長官　元アテネ五輪金メダリスト　室伏広治さん来校！

　10月24日（火）に、スポーツ庁長官の室伏広治さんが来校されました。室伏さんは、アテネオリンピックの陸上ハンマー投げで金メダル、ロンドンオリンピックでも同じ種目で銅メダルを獲得された方です。2校時の授業参観では、すべての学年の授業をご覧になり、子供たちに声をかけてくださったり、一緒に授業に参加してくださったりしました。また、業間の休み時間では、校庭や体育館で子供たちと会話や握手をしたり、バスケットボールや腕相撲をしていただいたりしました。

　最後にバスホールで、すべての学年との記念撮影に応じていただきました。たまたま来校されていた図書ボランティアのお母さんたちの撮影リクエストにも、快く応じていただきました。大らかで爽やかで、世界のトップアスリートの「大きさ」を肌で感じることができ、清々しい一日となりました。

中学部　後期生徒総会開催

　11月3日（金）に、中学部後期生徒総会が開かれました。新生徒会執行部役員が活動方針を説明して承認してもらい、各種委員会も活動方針を承認してもらう大切な会議でした。すべての発言に「パリ日をより良くしていきたい」と願う気持ちが伺えました。後半の意見発表でも多くの意見が出され、後日中学部で再度意見交流会を実施し、中学部のさらなる前進のために話し合いました。今後の中学部の成長が楽しみです。

全校朝会　校長講話「ことばの一人歩き」

　11月8日（水）の全校朝会では、最初に人気テレビ番組の「チコちゃんに叱られる」から、決め台詞の「ぼーっと生きてんじゃねーよ」を、普通の場面でチコちゃん以外にかけられた時の感じ方について考えました。

　次に、「パリ日祭」の招待演奏で、「私は中国人ではない」という歌について、この歌を聞いた人には様々な感じ方をした人がいることを話しました。また、マイアさんがこの歌を作曲したわけについても話しました。そして、必ずしも作曲者や歌い手の思いが、聞く人にそのまま伝わらいない場合があることも話しました。

　最後に、日常の中でよく耳にする「うざい、きもい、消えろ」などの「チクチクことば」について、「言う人」と「言われた人」の感じ方の違いについて考えてもらいました。みんなが楽しく安心して過ごせるパリ日実現のため、今後とも様々な機会を通じて指導をしていきたいと思います。

小学部4・5・6年生　水引づくり体験

～1300年続く日本の伝統文化に触れる体験～

　去る11月10日（金）に、小学部4～6年生が、広島から着物のPRのために来仏中の澤井律子さんらから、水引（みずひき）づくりを学びました。最初、水引の歴史や作り方の説明を受けました。飛鳥時代、遣隋使が中国から持ち帰ったものが日本での始まりだそうです。説明の後に水引で「梅結び」を作る体験をしました。その「梅結び」は、着物の生地をシールにしたものを活用した「しおり」として完成する予定です。

親師会三役　モンティニー市長表敬訪問

～「パリ日祭」ブロカント売上から500ユーロをモンティニー市に寄付～

　11月10日（金）に、親師会三役と校長、事務長でモンティニー市役所を訪問し、市長さんと助役さんに、売り上げから500ユーロの寄付を贈呈しました。

　今回モンティニー市には広報誌に50周年記念式典を大きく取り上げていただき、市長さんからは「今後も市とパリ日との関係はますます緊密に」とのお言葉をいただきました。

L'institut franco-japonais a 50 ans, dont 33 à Montigny

Le maire Lorrain Merckaert s'est élevé au niveau de l'éléphant le vendredi 6 octobre, en prononçant un discours (7 minutes) en japonais lors de la célébration des 50 années d'existence de l'institut culturel franco-japonais, dans l'établissement basé au Pas du Lac. Entre les interventions de Hiroshi Ito, le directeur de l'établissement, et Masato Shimokawa, Ambassadeur du Japon en France, la prouesse préparée méticuleusement, les semaines précédentes, a été saluée par les officiels, les élèves et leurs parents conviés à l'événement. La cérémonie a débuté par une vibrante Marseillaise interprétée impeccablement par tous les élèves, et s'est conclue par une représentation de théâtre traditionnelle Kyôgen donnée par le maître Hiroaki Ogosewa. L'institut culturel franco-japonais est l'établissement qui permet aux jeunes élèves nippons expatriés en région parisienne de poursuivre leur scolarité japonaise durant leurs séjours. Implanté il y a un demi-siècle dans des locaux situés dans le quartier du Trocadéro, l'institut a déménagé en avril 1990 pour s'installer à Montigny. Les élèves nourrissent de nombreux échanges réguliers avec les élèves des écoles de Montigny. Lorrain Merckaert a voulu notamment témoigner de la participation de l'institut à la vie locale. «Je tiens à vous remercier pour votre solidarité et votre générosité, puisque nous avons le plaisir chaque année de vous accueillir pour recevoir de vos mains un don des parents d'élèves pour les œuvres sociales de la ville. Sachez que je suis très sensible à ce geste. Nous sommes aussi fiers de constater que notre ville fait l'objet d'un livre scolaire et que vos élèves connaissent ainsi notre commune à travers son histoire, ses équipements, son urbanisme. C'est un acte de civisme exemplaire.»

Cette célébration d'anniversaire a aussi été l'occasion de concrétiser un concours de signes lancé pour les élèves de collège de l'établissement. La cour intérieure est aujourd'hui constituée en jardin japonais, sur la base des idées sélectionnées pour le prix d'excellence annuel de l'école.

DÉCÈS

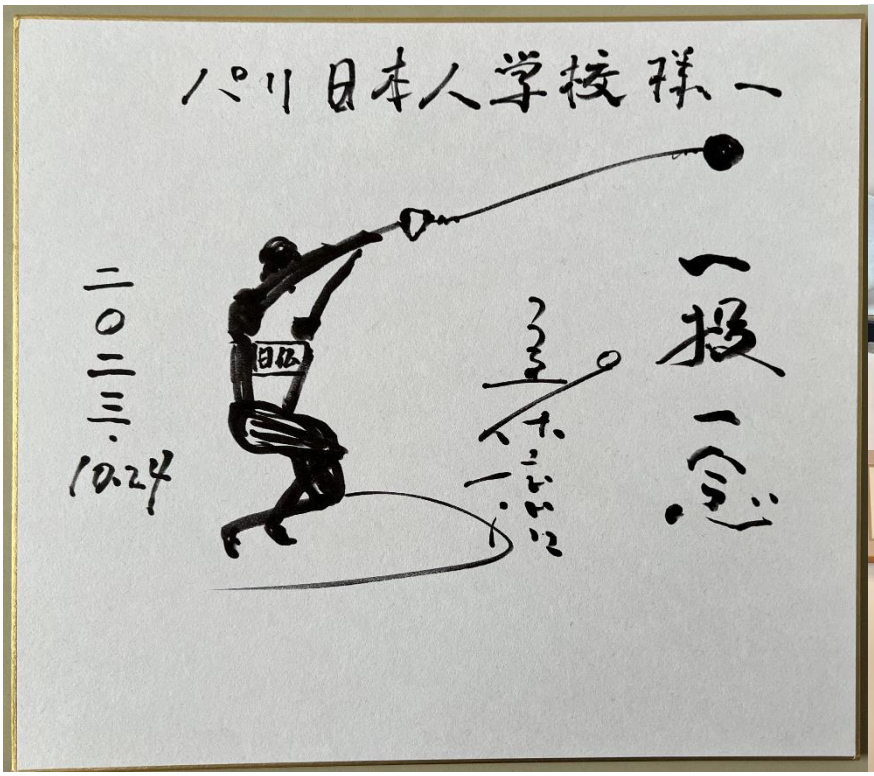
12/07/2023
Alain KIEFER

8 septembre 2023
Annet GRILHON

23 septembre 2023
Guy PERNET

3 octobre 2023
Anne-Marie JEZEQUEL
veuve FARCY

“特集”開校 50 周年記念　～パリ日の「宝」～第２部

【第６回】元オリンピック「ハンマー投げ」金メダリスト室伏広治さんによる色紙「一投一念」

　この号でもご来校を紹介した、現在スポーツ庁長官で、元アテネオリンピック金メダリストの室伏広治さんに色紙を書いていただきました。急なお願いにもかかわらず、筆を持つと私たちの目の前で、素早くこの色紙を書かれました。「一投一念」という熟語は辞書には載っていません。「ハンマー投げ」を専門とする室伏さんだからこその言葉と言えます。そんな言葉が見事なイラストと共に書かれたこの色紙。パリ日で最も新しい、そして、今後もずっと大切にされる「宝」となるでしょう。